

変遷

- ・大型商業施設跡地は、敷地面積約1万坪で神保原駅北側に位置しており、明治36年から昭和56年まで製糸工場が立地していた。当時は多くの人で賑わい地域に活気があったが絹産業の需要の変化などにより、昭和62年にジャスコ神保原駅前店（大型商業施設）に姿を変え、その後、同業種のトライアルメガセンター神保原店となり平成30年4月に移転により閉店。現在空き店舗になっている。

教育機関誘導の動き

- ・令和2年度に学校法人塩原学園（本庄市・私立中高一貫校）より上里町へ移転に係る要望が提出される。
⇒移転先として「神保原駅を中心とした徒歩5～10分圏内の地域で約1万坪以上の土地」と「上里町による土地購入」等の要望が提示。
- ・これを受け、希望に見合う民有地を町から学園側に候補地を複数提示し、当該地が選定される。
⇒当該地の土地購入に向け地権者との交渉に着手。
- ・令和5年11月に「上里町移転計画取り消し」の文書が町に提出される。
⇒物価高騰により建物建設や移転に係る経費の増加などの理由。

町民の意見

ワークショップ

- ・大型商業施設跡地に新たな「目的地」となる場所をつくり、賑わいを創出する。
- ・活気のある施設。等々

パブリックコメント・住民説明会

- ・高崎線沿線の駅で高校がない駅は神保原駅なので、上里町にも高校を誘致してほしい。
- ・若い高校生と高齢者がひとつになって町が発展すると良い。
- ・地域住民が交流できる施設。
- ・景観も含めてトライアル跡地の話を進めてほしい。等々

これらの「動き」や「意見」を踏まえ、神保原駅北まちづくり基本計画の「大型商業施設跡地の活用方針」を令和5年3月に策定

神保原駅北まちづくり基本計画



活用方針

■まちなかふれあいゾーン(大型商業施設跡地・郵便局周辺)

【空間の使い方】

・まちの良い所をいかしながら、『目的地』となるような使い方。

【必要なしかけ】

- ・都市構造再編集中支援事業等の活用により、教育機関や地域住民が交流できる活気のある施設の誘導。
- ・河川沿岸と一体的に公園、広場等を整備。
- ・ゾーン間を安全に行き交うことができる歩行空間整備の検討。

まちづくり基本計画図



賑わいづくりに向けた機能の誘導

【実施ゾーン】

・まちなかふれあいゾーン

【施策の概要】

施策概要

- ・駅北の賑わいづくりには、来訪者を増やすことが必要となることから、現在の駅周辺居住者や駅利用者だけでなく、広域的かつ経常的に人を呼び込むため、教育機関の誘導を推進します。
- ・駅北に憩いの場や交流スペースがないなどの課題に対応するため、教育機関の施設(図書室や食堂等)を誰でも利用できる地域に開かれた場所とするため、関係者との協議を行います。
- ・その他、地域住民等が交流できる施設の誘導を検討します。

上里町の今後方針

- ・当該地の活用は駅周辺の活性化において重要であり、引き続き、昭和47年頃から町の悲願であった高等学校(教育機関)の誘導や町の発展に資する施設の誘導も含めて、あらゆる選択肢を検討する。
- ・駅北まちづくり基本計画の「まちなかふれあいゾーン」の活用方針は変更はしない。